

令和4年7月4日発行

ふる里からの
「ふくろうたより」
7月号

今年の指針
“常に”



あかるく やわらかく やさしく

社会福祉法人 隆明会
デイサービスセンター ふる里

長崎県 大村市 鬼橋町 1416番地
TEL (0957) 27-4500
FAX (0957) 27-4501

HP検索：[デイサービスセンターふる里](#)

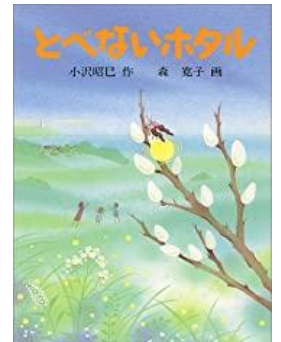


『 “とべないホタル” 』

6月のデイサービスセンターふる里の行事の様子は、今月号に掲載していますのでご覧ください。行事は、『自然とあそぼ!』というタイトルで実施しました。催し事の始めに私から挨拶をさせて頂くのですが、その時には、ホタルの話をしました。私の生家は、川がそばにあり、6月の頃は、家族でホタルを観察したことを思い出します。ホタルを捕って蚊(かや)帳の中に入れて遊んだり、チリ紙でホタル提灯を作って遊んだりしたことをお話ししました。6月17日に私の出身保育園であります“江永保育園”の評議員会がありました。それが終わって実家に帰ってホタルを探しました。川の奥の竹山の付近にホタルが飛んでいて、その光景に出逢えたことにとっても感動しました。後日、職員から「子供たちを連れてホタルを探しに行きました。三日目に萱瀬中学校に行ってやっと見る事が出来ました。」と、報告してくれたことが嬉しくてたまりませんでした。家族でのホタル探し、この時季にしかできないことを家族で体験することの意義は深く、素晴らしい家族だなあと感じました。

さて、『とべないホタル』という絵本があるのをご存じですか。シリーズ化され、大ベストセラーになっています。もともとこの本は、昭和30年ごろ、富山県の小学校教師であった小沢昭巳さんが、「いじめをなくそう」と思い、学級新聞にホタルの童話を書いたのが始まりです。

物語の内容そのものには、いじめを示すような内容は登場しません。物語は、当時校内放送されますが、やがて忘れられます。その32年後、小沢さんは様々な学校での勤務の後、その童話を書いた小学校へ校長として戻ってきます。その時、同校では再び「いじめ」が教師父兄の間で問題となっていました。対策に頭を悩ませていたところ、会議で、ある母親から「昔、校長先生が作ったあのホタルの話を……」との声が上がりました。その母親は、小沢さんが一教師として勤務していた頃に小学校に通っていた卒業生でした。30年間以上も前に聞いた物語が、彼女の中に生きていたのです。小沢校長は、埋もれていたその物語を見つけ出し、いじめのあったクラスで『とべないホタル』の話を読み聞かせると、子どもたちの様子が一変します。家に帰って、親にこの物語のことを感動しながら話します。「今日、学校ですごくいいお話を聞いたよ」って……。そのうち、親たちは「もっとたくさん子どもたちに……」とPTAで小冊子を作ることを思い立ちます。さらに小学校の放送委員の児童たちによって、この物語を題材にした校内放送番組が制作されます。それが地域に広がります。この動きがマスコミに注目され、『とべないホタル』が出版・発売されたのです。



【その内容は…】一匹の飛べないホタルを仲間たちが励ましますが、生まれつき羽が歪んでいるためどうしても飛べません。ある日人間が蛍狩りに来て飛べないホタルを見つけます。その時にある一匹のホタルが、男の子の手の中に…。とべないホタルは、自分の身代わりになってくれたと悟ります。ホタルをつかまえた子供達は、帰宅して足が悪くて外に出られない妹のひろちゃんにホタルを見せました。ホタルが飛ぶのを見て、うれしそうにしていました。この勇気ある優しいホタルは、ひろちゃんのために、せいいっぱい飛んで、おしりを光らせました。逃げようと思えば、いつでも逃げられたのに…(つづく)…という物語です。

センター長 森 隆敏

7月行事



6月行事は“自然とあそぼう！”と題して“自然！”をテーマにしたレクリエーションを行いました。1日目と2日目は“むしは触らずに捕まえたい虫キャッチャー”をしました。各チームから二人ずつ出てきてもらい、虫を飛ばす役と虫を網でキャッチする役に分かれて競いました。虫は“ちょうちょ”“カブトムシ”“トンボ”の3つ用意し、網で虫を捕ると3点、自分チームの虫を捕ると10点貰えるルールでした。最初はうまく虫を飛ばせなかったり、ゴムが切れてしまうトラブルもありました。そんな状況でもすぐに対応出来てパートナーへうまく虫を飛ばされていました。網を持つキャッチャーも腕を大きく伸ばしたりして、上手にキャッチした時には周りから「うわぁー！」と歓声と拍手が起こりました。2日目はゴムの数を増やすなどの対策を行い、初日よりスムーズに虫を飛ばせるようになりました。対戦が激化してさらに場が盛り上がり、キャッチする人の横でボンボンを持って応援するなどチーム一丸となって楽しみました。3日目は“枯れ木に花を咲かせましょう”のゲーム。ホワイトボードに紫陽花の外枠と葉っぱが貼ってあり、その中に各チーム1人ずつ出てきて花に見たてた花の磁石を投げて、大きな紫陽花を作る競技です。皆さん制限時間いっぱい使って頑張っていたらっしゃいました。大きく綺麗な花が出来上がり。勝敗決定の前に「ハイッ！ポーズ！」。“燃えたぎる青春”を味わえたゲームでした。



「むしに触らずに捕まえたい、虫キャッチャー」



「枯れ木に花を咲かせましょう」



6月行事で職員の仮装が良かった!

6月行事でも担当の2人が仮装をされました。1日目はテントウ虫の格好で! 2日目はミツバチに見立てた衣装をまとって登場しました。音楽のリズムに合わせて踊って登場。利用者さん達も大きな手拍子で迎えていました。3日目は花坂爺さんになり、飛び入り参加で殿に扮した職員が登場しました。そのなかでも寸劇が皆さんにとっても好評で、笑顔が咲き乱れていました。

行事担当 坂上希代美、高取 ゆみ子



初夏に合ったテーマの食事でした!



紫陽花の和菓子



抹茶どら焼き



アイスクリーム

言方問ボランティア

今回のおはなしの部屋は「ざっそう」と「ねこのごころ」の2話と西村先生によるオカリナの演奏が行われました。「ざっそう」は勝手気ままに生きているように見える雑草が、互いに激しい生存競争を繰り広げ必死に生きている姿を描いた絵本です。「ねこのごころ」は江戸時代の話。早起きが苦手な豆腐屋のせがれが主人公。人間を猫にたとえて物語が繰り広げられ、豆腐を食べたい欲求が満たすために行動する生活の様子が描かれています。

おはなしの最後にオカリナ演奏を頂きました。「雨」「芭蕉布」「朧月夜」の3曲を演奏。オカリナの心地よい高音がふる里全体に響き渡りました。演奏後には利用者さんからの大きな拍手が響き渡っていました。



高齢者自立支援センター ふる里

【高齢者自立支援センターふる里】とは…

介護認定を受けておられない方(総合事業対象者)と要支援1及び2の方を対象とした新事業の高齢者活動支援サービス事業(A型)を平成29年4月から始めました。名称は「高齢者自立支援センターふる里」といいます。

生涯、健康で安全・安心な自立した生活が送れるように支援していくことを目的とし、専門的な職員(自立支援プランナー)がサポートいたします。ご興味のある方は、いつでもどうぞ。ご連絡をお待ちしております。

七月の行事予定



◆ふる里 7月行事 『夏まつり』

7月19日(火)・20日(水)・21日(木)

◆生花教室 ～齊藤マサミ先生～ 13日(水)・29日(金)

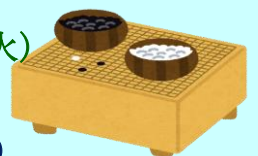
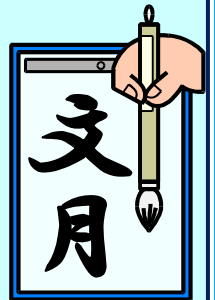
◆書道教室 ～中村朱実 先生～ 7日(木)・25日(木)

◆おはなしの部屋～鐘ヶ江先生他～ 28日(木)

※1 ふる里おはなしの部屋の時は、**午前中入浴**となりますので、皆様のご協力を宜しくお願いします。

◆押し花教室 ～中村壽美子先生～ 26日(火)

◆麻雀・将棋・囲碁 … 毎週水曜日午後
(6日、13日、20日、27日予定)



～6月の趣味活動の作品～



書道教室



押し花教室



生け花教室

今年も7月が始まりました。令和4年も半分が終わり暑い夏のシーズンになります。外気も30度を超える日も有り、外に出るだけで汗がぼたぼたと垂れてきます。そして今年は梅雨が早く終わってしまい、水不足が心配されます。私は汗の匂いが皆さんに届いてないかが一番の心配です……。次に熱中症です。こまめな水分補給は遠慮せず職員に言って下さい、お茶をご用意します！

暑い夏も一緒に乗り越えて行きましょう！

編集後記 田口 真一